

フィンセント・ファン・ゴッホ

19世紀に活躍したポスト印象派の画家。オランダで生まれ、主にフランスで活動した。画商の店員や書店員などさまざまな職業に就いた後、27歳のとき画家になることを決意し、本格的な絵の勉強を始める。当初は暗く重苦しい色彩の作品を描いていたが、パリに出てから印象派や日本の浮世絵に影響を受け、明るい色彩に転じている。37歳で亡くなるまでの10年余りの間に数多くの作品を残し、自画像も多く描いた。パリでの生活に疲れ、1888年アルルに移って、画家ゴーギャンと共同生活をする。二人はともに刺激し合うが、互いの個性がぶつかり合い、共同生活は破綻し、ゴッホは自らを傷つける「耳切り事件」を起こすことになる。その後、亡くなるまで療養所で生活した。